



## システム関連ポリシーの設定

この章の内容は、次のとおりです。

- [ラック サーバ ディスカバリ ポリシーの設定, 1 ページ](#)
- [MAC アドレス テーブルのエージング タイムの設定, 2 ページ](#)

## ラック サーバ ディスカバリ ポリシーの設定

### ラック サーバ ディスカバリ ポリシー

ラック サーバ ディスカバリ ポリシーは、新しいラックマウント サーバを追加したときのシステムの対処方法を決定します。Cisco UCS Manager は、ラック サーバ ディスカバリ ポリシー内の設定を使用して、ハードディスク上のデータがスクラビングされたかどうか、およびサーバ検出を直ちに実行する必要があるかユーザの明示的な承認を待機する必要があるかを決定します。

Cisco UCS Manager は、ファブリック インターコネクタに適切にケーブル接続されていないラックマウント サーバを検出できません。サポート対象の Cisco UCS ラックマウント サーバを Cisco UCS Manager に統合する方法については、適切な『[rack-mount server integration guide](#)』を参照してください。

### ラック サーバ ディスカバリ ポリシーの設定

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <code>scope org /</code>	ルート組織モードを開始します。  (注) ラック サーバ ディスカバリ ポリシーは、ルート組織からだけアクセスできます。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 2	UCS-A /org # <b>scope rackserver-disc-policy</b>	組織ラック サーバ ディスカバリ ポリシー モードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /org/rackserver-disc-policy # <b>set action {immediate   user-acknowledged}</b>	新しいラック サーバの追加にシステムが対応する方法を指定します。
ステップ 4	UCS-A /org/rackserver-disc-policy # <b>set descr description</b>	(任意) ラック サーバ ディスカバリ ポリシーに説明を加えます。  (注) 説明にスペース、特殊文字、または句読点が含まれている場合は、説明を引用符で括る必要があります。引用符は、 <b>show</b> コマンド出力の説明フィールドには表示されません。
ステップ 5	UCS-A /org/rackserver-disc-policy # <b>set scrub-policy scrub-pol-name</b>	新しく検出されたラック サーバ上で実行する必要があるスクラブ ポリシーを指定します。
ステップ 6	UCS-A /org/rackserver-disc-policy # <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステム設定にコミットします。

次の例は、デフォルトラック サーバ ディスカバリ ポリシーに範囲を設定し、すぐに新しいラック サーバを検出するよう設定し、ポリシーの説明を記入し、scrubpoll というスクラブ ポリシーを指定して、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A /org # scope rackserver-disc-policy
UCS-A /org/rackserver-disc-policy* # set action immediate
UCS-A /org/rackserver-disc-policy* # set descr "This is an example rackserver discovery policy."
UCS-A /org/rackserver-disc-policy* # set scrub-policy scrubpoll
UCS-A /org/rackserver-disc-policy* # commit-buffer
UCS-A /org/rackserver-disc-policy #
```

## MAC アドレス テーブルのエージング タイムの設定

### MAC アドレス テーブルのエージング タイム

ポート間でパケットを効率的に切り替えるために、ファブリック インターコネクトは MAC アドレス テーブルを保持しています。ファブリック インターコネクトは、受信したパケットの MAC ソース アドレスと、パケットが読み取られた関連ポートを使用して、MAC アドレス テーブルを動的に構築します。ファブリック インターコネクトは、設定可能なエージングタイマーで定義されたエージング メカニズムを使用して、エントリが MAC アドレス テーブル内にとどまる期間を

判断します。アドレスの非アクティブ状態が所定の秒数続くと、そのアドレスは MAC アドレス テーブルから削除されます。

MAC アドレス エントリ (MAC アドレスとその関連ポート) が MAC アドレス テーブルにとどまる時間 (エージ) はユーザが設定できます。

## MAC アドレス テーブルのエージングタイムの設定

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>scope eth-uplink</b>	イーサネット アップリンク モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /eth-uplink # <b>set mac-aging {dd hh mm ss   mode-default   never}</b>	MAC アドレス テーブルのエージングタイムを指定します。設定済みのイーサネットスイッチングモードに依存するデフォルト値にエージングタイムを設定するには、 <b>mode-default</b> キーワードを使用します。アイドルのまま経過した時間にかかわらず MAC アドレスがテーブルから削除されないようにするには、 <b>never</b> キーワードを使用します。
ステップ 3	UCS-A /eth-uplink # <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステム設定にコミットします。

次に、MAC アドレス テーブルに 1 日と 12 時間のエージングタイムを設定し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope eth-uplink
UCS-A /eth-uplink # set mac-aging 01 12 00 00
UCS-A /eth-uplink* # commit-buffer
UCS-A /eth-uplink #
```

